



新屋図書館だより



発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 231

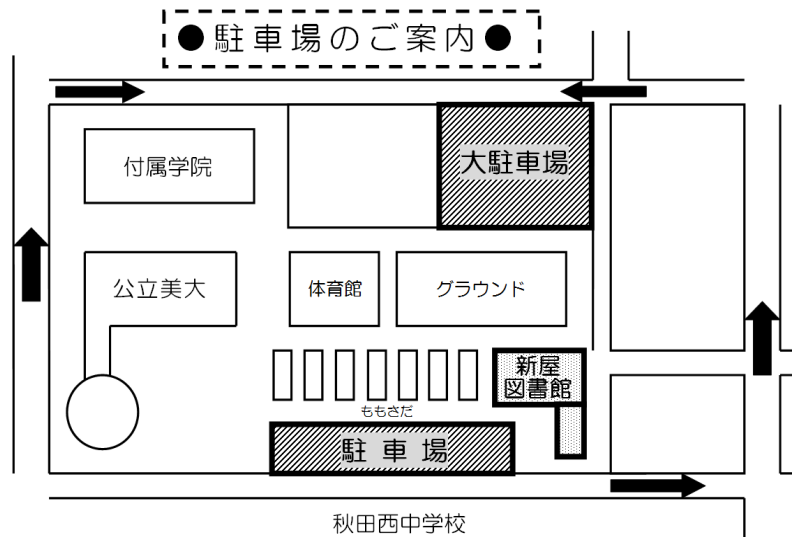
R3. 4月号

屋根の補修工事のお知らせとお願い

暴風により破損した倉庫棟屋根の補修工事を行っています。

作業期間は、3月29日(月)から4月29日(木)までの予定です。作業中は、大きな音が響いたり図書館側の駐車場の一部が使用できません。車でお越しの際は、美大グラウンド側の大駐車場も併せてご利用ください。

ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



いろいろ催し物やってます！

☆秋田公立美術大学附属高等学院作品展～羅生門 ブックカバーデザイン展～

3月18日(木)～5月30日(日) 会場：渡り廊下ほか

☆貸出・予約ランキング発表！

4月1日(木)～4月25日(日)

☆おはなしのしずくのおはなし会 会場：研修室

・第1回目：4月3日(土) 14:00～14:20 幼児～小学生

・第2回目：4月13日(火) 10:30～10:50 赤ちゃん～

☆春のブックフェア「新学期だよ♪読んでみよう！教科書にのってる本」

4月20日(火)～5月16日(日)

会場：渡り廊下



新刊案内

忖度しません

斎藤 美奈子／著

筑摩書房 請求記号 019.9 (書評)

文芸評論家による本の案内ですが、これまでの著作とは異なり今を生きるうえで考えたことを忖度なく発言したものです。意見が通らない理由を相手がバカだからで終わらせない。考えが同じでも違っていても、社会問題を自分事として捉えコミュニケーションを取るための一助に。



はじめてのグラフィックレコーディング

久保田 麻美／著

翔泳社 請求記号 809.6 (会議)

自分の発言が、相手に違った受け止められ方をすることを防ぐため、互いの考えを可視化するグラフィックレコーディングが多くの場面で使われるようになりました。何を聴いて、何を聞き流し、どのように書いていくのか、グラレコ初心者にも分かりやすくレクチャーします。

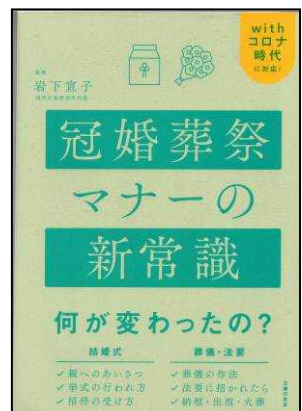


冠婚葬祭マナーの新常識

岩下 宣子／監修

主婦の友社 請求記号 385 (マナー)

コロナ時代で求められる新しいマナー。人が集まる冠婚葬祭は特に気を遣う場面です。写真撮影はどうする？ 弔問の際のマスクの色は？ 主催する側・出席または参列する側の両方の立場で注意すべきことを細部まで解説している1冊です。



しゅくだいなかなかおり

福田 岩緒／作・絵

PHP研究所 請求記号 91 フ (読み物) ※1～2年生ころから

まことは、友達のしんごと遊びに出かける約束をしていました。それなのに、しんごは待ち合わせ場所に来なかったのです。次の日学校でしんごがいつものように話しかけてきたけれど、それが面白くなくて、ぎくしゃくしてしまいます。二人は仲直りできるのでしょうか？



図書館員（平山 義尚）のおすすめ本

書名	神トーク「伝え方したい」で人生は思い通り
著者名	星 渉／著
出版社	KADOKAWA
所蔵	新屋、土崎
	請求記号 361.45 (コミュニケーション)



コミュニケーションは古今東西を問わず、より良い人生を送るための永遠の悩ましい課題です。人間関係、仕事などあらゆる場面でコミュニケーションスキルが求められ、聞く事、話す事次第で、人生の成否を左右することもあります。人との接触機会の自粛が求められるコロナ禍の時代では、顔の表情を伝えきれないマスク越しでの、自分の思いの伝え方が一層大切なスキルとなります。

本書では、心理学などに基づき科学的に裏付けされた「人の心を動かす」伝え方を具体的な事例を用いて解説しており、人生を思い通りにできる「神トーク」のスキルを紹介しています。就職、進学、転勤などにより、身の回りの環境変化が大きいこの時期に、お薦めの一冊です。（人の心を動かすことの万能薬はないけれども、この一冊が一助になるかも？全ては自分の心が決めることかな。）

図書館員（畠山 隼人）のおすすめ本

書名	サラリーマン球団社長
著者名	清武 英利／著
出版社	文藝春秋
所蔵	明德
	請求記号 783.7 (野球)



普段私たちが見るプロ野球というのは、各球団の選手と監督がおこなう約140試合（2020年は縮小しましたが）で全て完結しているように思えますが、本書ではその裏側である球団経営に迫ります。

阪神航空の旅行部長と東洋工業の経理部員がまったく畑違いのプロ野球界に放り込まれ、フロント同士の派閥やオーナーと監督の板挟み、

選手の流出、旧態依然としたスカウトシステムなど様々な問題にぶつかり乗り越えていく姿が克明に描かれ、「ノムさん」「闘将・星野」「ナベツネ」などの著名人も登場し、読む手が止まりませんでした。

筆者が過去に読売巨人軍球団代表兼GMを務めた、作家の清武英利さんということもあり、臨場感のあるノンフィクションです。

記事になったお酒の話題あれこれ・・・酒米新品種・・・

近所のスーパーの酒コーナーを物色していて、見慣れない日本酒が2つ並んでいるのを発見しました。それぞれ「一穂積（いちほづみ）」「百田（ひやくでん）」というラベルが貼られていたのですが、最近読んだ新聞にそのお酒の記事が掲載されていました。どちらも最近誕生した新品種とのこと。ふくらみのある味わいの「百田」、すっきりとした味わいの「一穂積」。どちらも魅力たっぷりの日本酒です。ぜひ2つを飲み比べてみたいと思います。

新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の
資料コーナーがあります。

【参考資料】
読売新聞
2021年2月13日

今、あなたへ

4月に入り、新しい環境ではりきりすぎて、すこし疲れてしまった…なんていうことはありませんか？ そんなときには、「手軽に読める短編を1日1作ずつ読んでみる」というルーティーンを作ってみるのはいかがでしょう。

『Story Seller』シリーズは、有川ひろ、伊坂幸太郎など、日本のエンタメ小説界を代表する7人が共演する豪華な短編集。『リクエスト・アンソロジー』シリーズは、編者がテーマをひとつ決め、そのテーマを書いてほしい作家に執筆を依頼して作られた短編集。作家ごとの個性が味わえます。学校の朝読や休み時間に読むのであれば、短い物語の中で驚きの展開を楽しめる『5分後に意外な結末』シリーズや、多くの知識やおはなしがぎゅっと詰めこまれた『10分で読める』シリーズがおすすめです。

ゆっくりと物語を味わう時間を作ることで心を落ち着かせたり、さまざまな作家が参加するアンソロジーを読んでいるうちに、お気に入りのひとりをみつけることができるかもしれません。もしかしたら、読んだ本が新しく知り合った人との共通の話題になるかも…？

図書館員のひとりごと

最近、私が小学生の頃に流行っていた「こびとづかん」に3歳の娘がハマり休みの日は必ずこびと探しに連れて行かれます。モグラの通った道や草むらの陰など真剣に探したり自分でなくした物をこびとが持って行ったと信じていたり・・・そしていつの間にか私も「片付けないと黒いこびとがくるよ」と上手く利用してしまっています。そんなことをしているうちに親がこびとにハマってしまい本を買いに行き、フィギュアを使ってリアルこびと探しを始め子どもよりも盛り上がっています。どうかもう少し飽きずに付き合ってくださいように。（三浦）

ここ半年ほど、Appleの音楽聞き放題サービスを利用しています。サブスクというらしいですが、月額料金を支払うことで音楽が聴き放題という大変便利なサービスです。

聴き放題ということで、あれもこれもとダウンロードしておりますが、問題があります。曲名を覚えられないのです。

昔と比較すると、購入までの手間が大きく省かれ、その曲に費やす時間が減ったため、結果思い入れも減ってしまったのかなあと考えながらも、今日も聞き放題だからとダウンロードする手が止められません・・・（畠山）